

「
と
り
か
ご
」

○白鳥家・紬の部屋（夜）

白鳥紬（16）ベッドに横になりながら、壁にかかっている制服を眺めながら。

紬「行きたくないな」

と枕に顔をうずくめる。

紬「あー」

と枕に叫ぶ。すると下の階にいる母から「お風呂入っちゃって」と声がかかり紬は「はいい」と返事だけする。

○道路（翌日）（朝）

重い足取りで学校に向かう制服姿の紬。桜が散っているのを見て溜息をつく。

紬「……」

周りには楽しそうに歩く、大きなランドセルを背負っている小学生とスーツを着て目を輝かしている新社会人たち。

紬「（なんで自分だけ）」

とぼとぼ歩いていると、目の前に一人で下を向いて歩いている小学生の女の

子に気が付く。

紬「（同じだ）」

紬はその小学生の後ろを歩く。紬の後ろから小学生の女の子が前にいる女の子に向かい走っていき声をかける。

紬「（なんだ友達いるのか）」

紬はまた一人で下を向いて歩く。

○学校・外

玄関の窓ガラスにクラス分けの紙が貼られている。その周りには同級生がたくさんいて、紬は遠くから待っている。

紬「……」

紬は正面にいる女の子のことが気になっっている、その女の子が紬に「違うクラスになっちゃったね」という、紬が話す前にすぐに違う女の子を見つけ声をかけに行く。後ろから「さくちゃんと同じクラスで安心した」と声が聞こえてくる。

紬「……」

周りは自然と二人組ができている。紬は一人。玄関に張り出されている紙の上側がぺりっとはがれている。人だかりもなくなり、紬は紙を貼り直しながら、クラスを確認する。

紬「……1組か」

同級生は次々学校の中に入っていく。

○学校・1組の教室

席を確認して席に着くクラスメイトと紬。ざわざわしている教室。紬の後ろに女の子、佐々木小春(19)が座る。紬はよしと後ろを振り返り、

紬「よろしくね」

と緊張した声で言う。小春は【うん】と答える。

紬「……」

小春「……」

気まずい空気が流れ紬は前を向き直し、

顔を机につけ落ち込む。すると小春が立ち上がり、ほかの女の子と話し始める。その二人はひそひそ話をし始める。

紬は話が気になりながら、

紬「……」

正面の黒板をじっと見つめる。後ろの二人はしばらくすると自分たちの席に戻る。

紬「……」

小春が紬の背中をペンでつつんと押す。

紬「！」

驚きながら振り返る紬。

小春「ねえねえ名前何？」

紬「白鳥紬です」

小春「紬ちゃんか、私は佐々木小春」

紬「（小さい声）小春ちゃん」

小春「紬ちゃん、推しとかいる？」

紬「……今はいないかな」

小春「へー、じゃあ前まで何推してたの？」

紬「アニメなんだけど」

小春「そうなんだ、アイドルは？ オーデイ

ションとか見ないの？」

紬「うん、あんまり見ないかな」

小春「そっか」

と小春は興味がなくなる。

紬「ごめん、なんかおすすめとかある？」

小春「興味ないなら無理しないでいいよ」

紬「そんなことないよ」

小春「私、アニメとか興味ないし」

紬「……」

何も言えなくなる紬、小春は立ち上がり、教室を出てどこかに行ってしまう。

紬「……」

後悔しながら正面を向く。

紬「……」

しばらくして小春が教室に戻ってくる。
ちらちらとみる紬。

○白鳥家・紬の部屋（夜）

ベッドに横になりながらスマホを眺めて
いるとクラスLINEの通知が来る。

紬「（溜息）」

通知がひっきりなしに鳴る。紬、スマホを遠くの机に置き、漫画を手取る。漫画を読んでいると、通知が止む。

紬「（やっと終わった）」

スマホを見るとLINEの通知が50件になっている。LINEの内容は見ず既読だけつける。

紬「……」

1件通知が残る、【小春】から友達追加され、よろしくのスタンプが送られている。

紬「なんで」

疑問に思いながらお辞儀のスタンプを送る。

紬「……」

○学校・1組の教室（翌日（朝））

クラスメイトはみんな誰かと話しているが、小春は一人で席に座っている。

紬は教室に入り、席に座る。

小春「紬ちゃんおはよう」

紬、振り返る。

紬「おはよう」

小春「紬ちゃん、友達出来た？」

紬「いや……」

小春「じゃあ今日から私たち友達ね」

紬「……うん」

先生が教室に入ってくる、学校のチャイムが鳴り、

先生「席について」

クラスメイト全員が渋々席に着く。

紬「（今日から友達？）……」

× × ×

終わりのチャイムが鳴る。クラスがざわつき始める。

小春「紬ちゃん」

紬、振り返り、

紬「どうしたの？」

小春「トイレ一緒に行こう」

紬「いいけど……」

先生「この続きはまた金曜日にやります、今日はここまで」

と先生の声が生徒の声でかすれる。クラスメイトが立ち上がり各自のグループのもとで話始める。

小春「紬ちゃん行こう」

紬「うん」

○同・女子トイレドア前

女子トイレの前に何人も話し込んでいる女の子がいる。紬と小春もその中の二組となる。

紬「（トイレ）先行っていいよ」

小春「？」

紬「行かないの？」

小春「別に行きたくないけど」

紬「（何しに来たの）」

小春、鏡を見て、ポーチからくしを出し、何度も前髪を整える。紬は立ち尽くす、すると後ろにいる女の子が紬の前にある鏡を使ったそうにしている。

紬「ごめん」

と鏡の前を退くと、その女の子も変わらない前髪を何度もくしで整える。

紬「（変わらない）……」

同級生 A 「みゆちゃん、新学期早々告ったらしい」

同級生 B 「いや、彼氏いるって言ってなかった？」

紬「（気まずい）」

同級生 A 「二股でしょ、すぐばれると思うけど」

同級生 B 「ほんと男ならだれでもいいだね」

同級生 A 「ねー」

同級生 A、B は笑いながら女子トイレを出ていく。女子トイレの中は静まり返る。

小春「紬ちゃんが好きないの？」

一段と静かになる。他の女子の視線が刺さる紬。

紬「……」

小春「いないの？」

紬「今はいいかな」

小春「今はってことは、少し前はいたの？」

紬「……ずっといいかな」

小春「ふーん」

空気が重い。

○道路（夕）

分かれ道で小春と別れ、大きく息をす
る紬。

紬「やっと自由」

鳥が近くの木にとまる。鳥に近づくと

飛んで行ってしまう。

紬「あー」

飛んでいる鳥を眺める。

○学校・1組の教室（翌日）

チャイムが鳴る。席を立ち小春が紬の
前に来る。

小春「次移動だよね？」

紬「うん」

小春「一緒に行こう」

紬「（すぐそこなのに）いいけど」

○白鳥家・紬の部屋（夜）

ベッドの上で漫画を読む紬。1組のグ
ループLINEの通知が何度も鳴る。

紬「（イライラ）」

LINEを開く、トーク画面を見てい
ると何人かグループを退会している。

紬「大丈夫だよね」

グループLINEを退会する紬。静か
な部屋で漫画を読む。

○学校・1組の教室（翌日）

時間ギリギリに教室に入る紬。クラス

メイトは揃っていて、それぞれ誰かと話している。小春も別の女の子と話している。

紬「……」

紬、鞆を机に置き小春のそこへ行く。

紬「おはよう」

小春「おはよう」

どこか冷たい空気が流れる。チャイムが鳴る。

○道路（数日後）（朝）

ゆっくり歩く紬、反対の道路に同じ制服の女の子4人が楽しそうに歩いている、3人が横に並び一人は後ろから歩き頑張っている間に入るうとする。

紬「……」

後ろを歩いていた女の子は間に入るこ
とができなかったが、また違う女の子が後ろ
を歩く。

紬「（溜息）」

○学校・1組の教室（数日後）

一人で椅子に座り教科書をまとめている。後ろで小春がほかの女の子に、
小春「次の授業の移動一緒に行こう」

と誘っている。紬は小春のもとに行き
紬「私も」

と言うと微妙そうな表情を浮かべる小春。

小春「一緒に行くの？」

紬「うん」

× × ×

小春と女の子は楽しそうに話しをしながら階段を上る、紬は話に入れず後ろからついていく。時々となりに並ぶが二人は見向きもしない。

紬「……」

だんだん歩くのが遅くなっていく紬。

紬「……」

○白鳥家・紬の部屋（夜）

お風呂を上がった紬は濡れた髪をタオルで軽くふきながらアイスを食べる。

紬「すっきりさっぱり」

一息つきながら床に座りスマホを手に取り、SNSを開く、漫画の最新刊の発売が明日だという情報を見つける。

紬「明日か！　楽しみすぎる」

ご機嫌にアイスを食べる。

○道路（翌日（朝））

制服を着た紬、足取りは重そうにしている。下を向いてアリのをよける。

紬「せっかく今日楽しみが待っているのに」

鳥が3匹木にとまる。紬の足が止まる。

紬「3匹……」

二匹が空に飛んでいく、一匹は木にとまったまま、のんびりしている。

紬「行っちゃったよ、早くついていきな」

と鳥に話しかける。しかし鳥はのんびり寝始めた。紬はそんな鳥の姿にふふ

と笑みがこぼれる。

紬「いいな、自由に」

紬はよしと歩き始める。

○学校・1組教室

教室に入る紬、小春はほかの女の子と話している。紬まっすぐ自分の席に着く。

紬「……」

× × ×

チャイムが鳴り、教室では「一緒に行こう」と声が飛び交う。クラスメイトは教室から出て移動する、小春もほかの女の子と移動し始める。紬、一人で移動の準備をする。

紬「……」

○学校・外（夕）

一人で帰ろうとする紬に後ろから

小春「ねえ一緒に帰ろ」

と声をかけられる。

紬「あれ、さっきまで友達といたよね？」

小春「部活があるって、だから私一人なの」

紬「そうなんだ、でもごめん、私、寄るところがあるの」

小春「……」

紬「ごめんね、またね」

とすたすた歩く紬。立ち尽くす小春。

小春「……」

紬、腕を伸ばす。

紬「（深呼吸）」

満足げな表情を浮かべる。

紬「自由だ」

完